

科目名	母性看護学実習 Maternity Nursing Practice		担当教員 (研究室番号)		岩田 朋美 (101) 他		教員への連絡方法 (メールアドレス)					
履修年次	3年次 後期	科目 区分	専門科目・生涯看護学		選択 区分	必修	単位数 (時間)	2 (60)	授業 形態	実習	科目等 履修生	否
											オープンクラス	否
科目 目的	母性の健康と次世代の健全育成を支援するため、母性の一生を通して、健康の保持・増進、正常からの逸脱の予防・回復方法を学び、母性看護の役割について考察する。											
ディプロマ・ポリシー (DP)	主要なDP	D 様々な職種との連携において、看護専門職者としての役割を理解し、多職種による 協働活動に参加できる。(技能・表現) E 地域社会に暮らす人々の生活支援において必要となる情報を分析し、健康課題を解決するための方策を考えることができる。 (思考・判断) F 地域社会に暮らす人々の健康課題の解決に向けて、対象に応じた看護を提供できる。(技能・表現)										
	関連する DP	A 人々の生命・尊厳・権利を尊重し、看護専門職者としての倫理観に基づいて行動することができる。(姿勢・態度)										
到達 目標	1. 妊婦、産婦、褥婦、新生児およびその家族の健康状態を総合的に判断し、立案した看護計画をもとに看護を実施、評価する能力を養うことができる。 2. 妊婦、産婦、褥婦、新生児およびその家族への看護実践を通じ、母性看護に必要な基本的援助技術を修得することができる。 3. 妊婦、産婦、褥婦、新生児およびその家族が地域において生活していく上で必要な看護を行い、母性看護の役割について考えることができる。 4. ライフサイクルにおける女性の健康状態について総合的に判断し、家族の機能や役割について考えることができる。											
成績評価方法 (基準)		実習目的・目標の達成度、実習態度、カンファレンスへの参加、出席状況、記録の提出について点数化し、評価する。										
再試験の有無と 基準等		「実習の出欠席及び追実習に関する取扱要領」の第4条に記載される理由による1/4以上を超える欠席の場合に追実習を認めることがある。										
教科書		母性看護方法Ⅱで指定した教科書										
参考書等		改訂4版 胎児心拍数モニタリング講座 メディカ出版 その他、必要時紹介します。										
学生の主体性を伸ばす ための教育方法と学生 への期待		実習では、さまざまな状況を観察・判断する能力が求められます。自己学習を十分に行い、主体的・積極的に実習に取り組んでください。常に自分自身の課題を明確にしながら看護を実践し、学びを深めてください。										
備考												
学 習 内 容												
〔実習内容〕												
1. 妊婦およびその家族への看護 妊婦の身体的、心理・社会的特徴、妊娠経過を理解し、妊婦およびその家族のニーズ・健康課題・健康問題のアセスメントと看護方法について学ぶ。												
2. 産婦およびその家族への看護 産婦の身体的、心理・社会的特徴、分娩経過を理解し、産婦およびその家族のニーズ・健康課題・健康問題のアセスメントと分娩各期の看護方法について学ぶ。												
3. 褥婦およびその家族への看護 褥婦の身体的、心理・社会的特徴、産褥経過を理解し、褥婦およびその家族のニーズ・健康課題・健康問題のアセスメントと看護方法について学ぶ。												
4. 新生児の看護 新生児の身体的、心理・社会的特徴、生後日数に応じた変化を理解し、新生児のニーズ・健康課題・健康問題のアセスメントと看護方法について学ぶ。												
5. 女性およびその家族への看護 女性の健康の保持・増進、疾病の予防、疾病の回復方法について学び、家族の機能や役割について考察する。												
〔実習場所〕 県内の総合病院および診療所												
* 詳細は、「領域別看護学実習要項」を参照する。												

学 習 課 題
* 詳細は、「領域別看護学実習要項」を参照する。

実務経験を活かした教育の取組
・担当教員全員は、看護職として実務経験がある。看護の実践および教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本実習の教育を行う。また、実習施設では看護職の実習指導者からも指導を受ける。